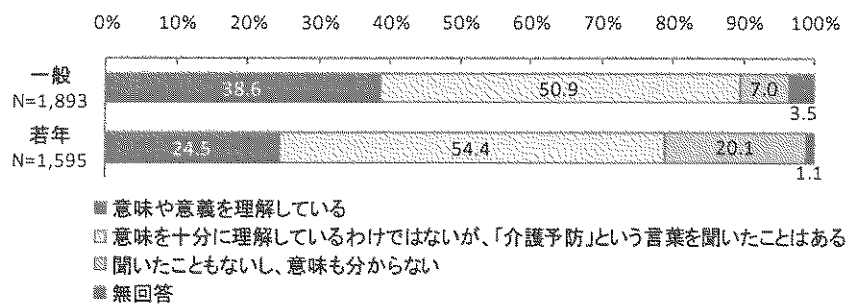


(4) 介護予防について

対象：『一般高齢者』、『若年者』

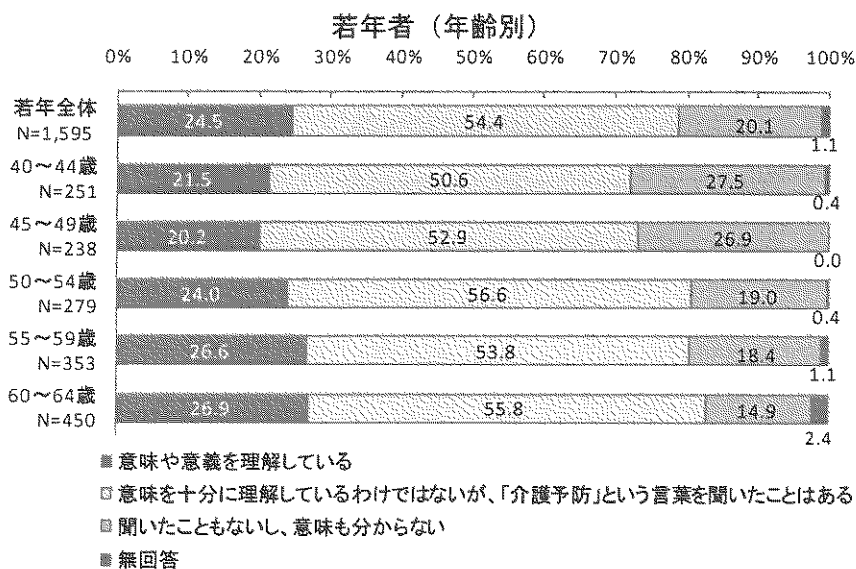
「介護予防」という言葉やその意味・意義を知っているかについて尋ねたところ、一般高齢者、若年者ともに「意味を十分に理解しているわけではないが、「介護予防」という言葉を聞いたことはある」が一般高齢者 50.9%、若年者 54.4%で最も多かった。

「意味や意義を理解している」は、一般高齢者で 38.6%、若年者で 24.5%であり、「意味を十分に理解しているわけではないが、「介護予防」という言葉を聞いたことはある」と合わせると、一般高齢者で 89.5%、若年者で 78.9%の人が、「介護予防」という言葉や意味を知っている。一方、「聞いたこともないし、意味も分からない」は、一般高齢者で 7.0%、若年者で 20.1%となっている。



【調査対象属性別特徴】

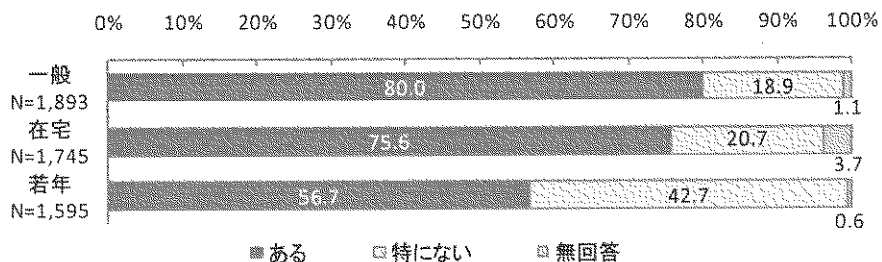
若年者の年齢別にみると、年齢が高いほど介護予防の認知度が高い傾向にある。



(4) - 1 介護予防の取り組み状況

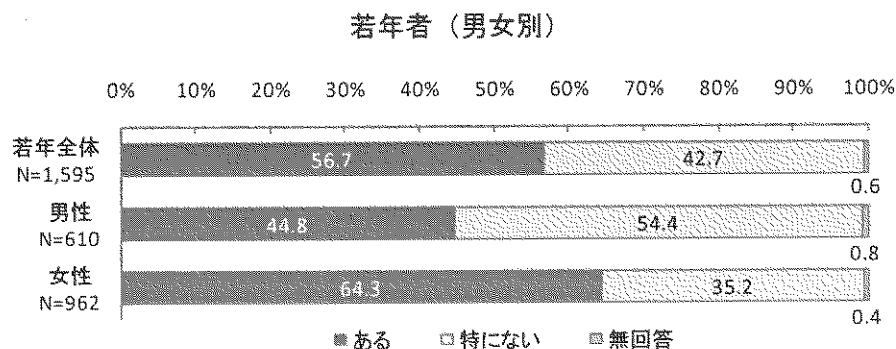
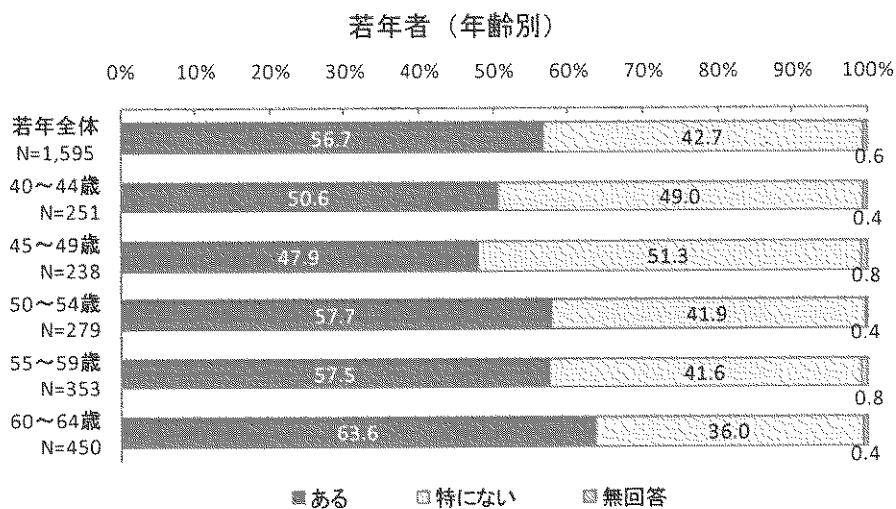
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

健康づくりや、介護予防のために日ごろから取り組んでいることがあるかどうか尋ねたところ、一般高齢者では80.0%、在宅高齢者では75.6%が「ある」と答えたのに対し、若年者では56.7%であった。



【調査対象属性別特徴】

若年者の年齢別にみると、50歳以上で「ある」と回答した割合が高い。男女別にみると、女性の方が「ある」と回答した割合が高い。



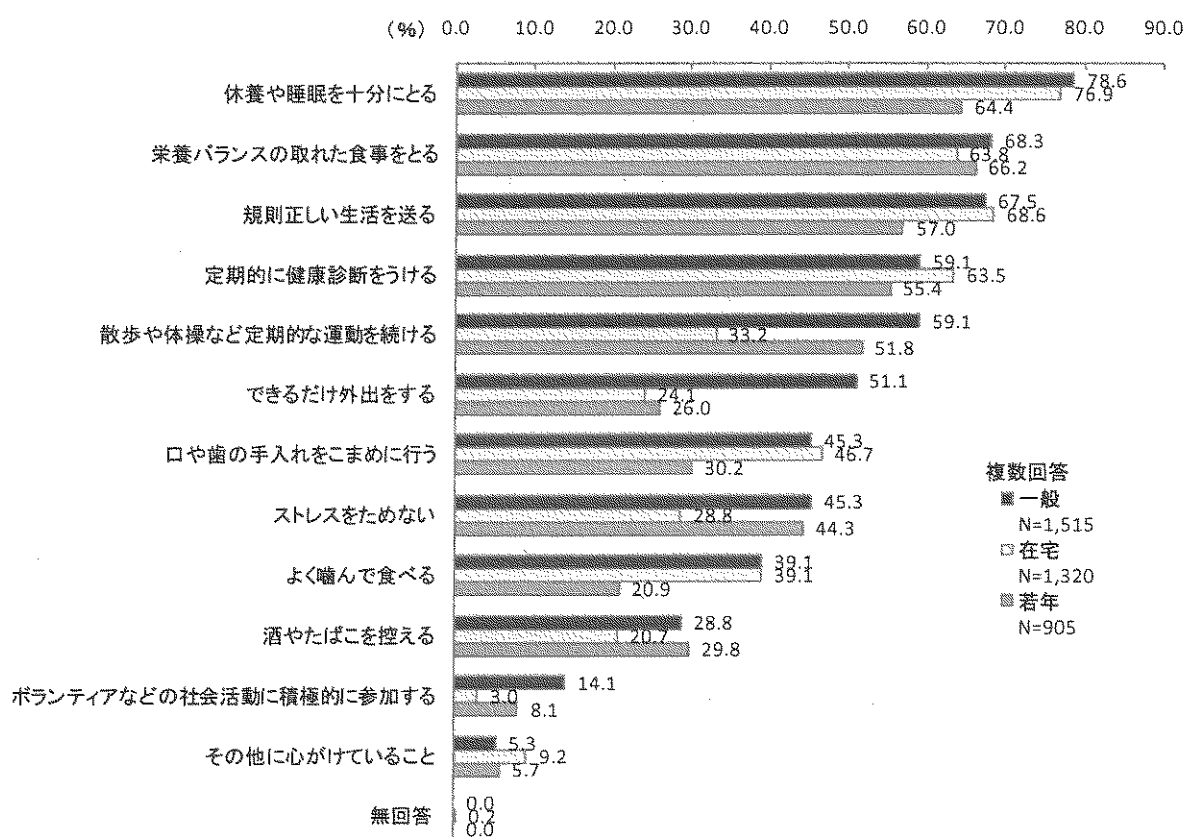
(4) - 2 介護予防の取り組み内容

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

健康づくりや介護予防のために、日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人にその内容を尋ねたところ、一般高齢者では、「休養や睡眠を十分にとる」が78.6%と最も多く、次いで「栄養バランスの取れた食事をとる」が68.3%、「規則正しい生活を送る」が67.5%の順となっている。

在宅高齢者では、「休養や睡眠を十分にとる」が76.9%と最も多く、次いで「規則正しい生活を送る」が68.6%、「栄養バランスの取れた食事をとる」が63.8%、「定期的に健康診断を受ける」が63.5%となっている。

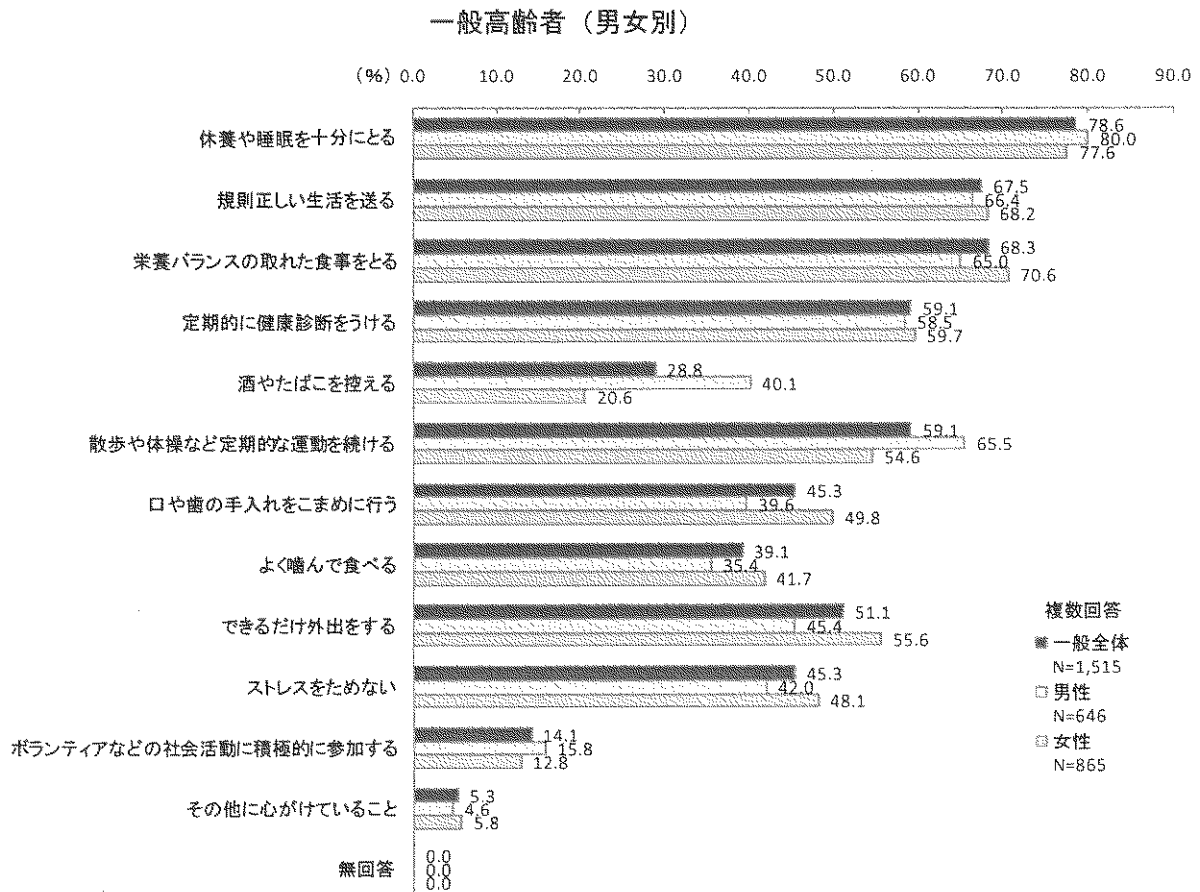
若年者では、「栄養バランスの取れた食事をとる」の66.2%、「休養や睡眠を十分にとる」の64.4%が上位2つとなっている。これらに次いで「規則正しい生活を送る」が57.0%、「定期的に健康診断を受ける」が55.4%となっている。



【調査対象属性別特徴】

一般高齢者の男女別にみると、「酒やたばこを控える」、「定期的な運動を続ける」は男性の割合が高く、「口や歯の手入れ」、「できるだけ外出をする」は女性の割合が高い。他の項目には大きな差はない。

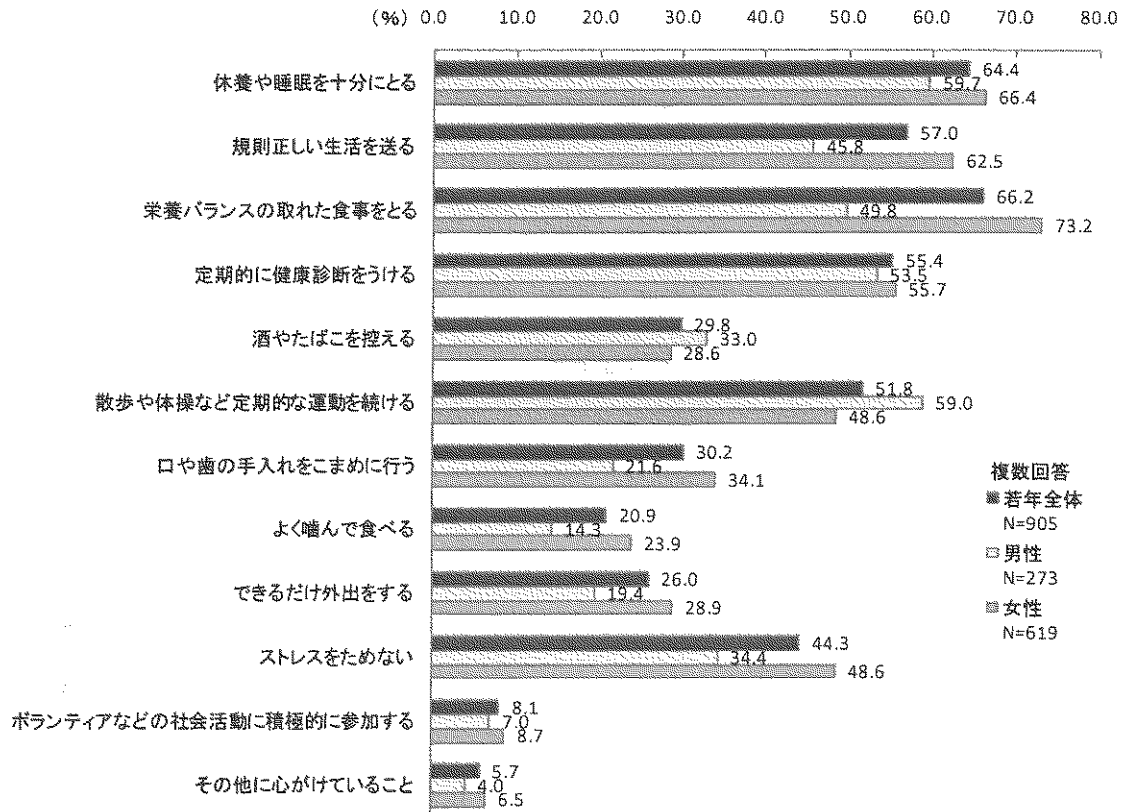
若年者の年齢別にみると、定期的な運動に関しては、年齢が高いほど取り組んでいる割合が高い。男女別では、男性では「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が多い。女性では「規則正しい生活を送る」、「栄養バランスの取れた食事をとる」、「口や歯の手入れをこまめに行う」などで男性よりも高い割合を示している。



若年者（年齢別）

	実数		構成比 (%)					計	
	計		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳		無回答
1 休養や睡眠を十分にとる	583		62.2	60.5	62.1	67.0	66.4	64.3	64.4
2 規則正しい生活を送る	516		57.5	50.0	59.0	61.1	57.0	28.6	57.0
3 栄養バランスの取れた食事をとる	599		69.3	64.9	62.7	67.0	66.1	78.6	66.2
4 定期的に健康診断をうける	501		50.4	58.8	52.8	58.1	54.5	78.6	55.4
5 酒やたばこを控える	270		33.9	35.1	31.7	28.1	26.6	21.4	29.8
6 散歩や体操など定期的な運動を続ける	469		45.7	47.4	48.4	50.2	59.1	57.1	51.8
7 口や歯の手入れをこまめに行う	273		22.8	20.2	21.7	38.9	36.4	21.4	30.2
8 よく噛んで食べる	189		22.0	16.7	17.4	22.2	23.4	14.3	20.9
9 できるだけ外出をする	235		23.6	21.1	19.9	27.1	31.8	21.4	26.0
10 ストレスをためない	401		43.3	43.0	42.2	49.8	42.7	42.9	44.3
11 ボランティアなどの社会活動に積極的に参加する	73		3.9	4.4	5.0	10.3	11.9	0.0	8.1
12 その他に心がけていること	52		2.4	3.5	8.7	6.9	5.6	7.1	5.7
計	905		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

若年者（男女別）



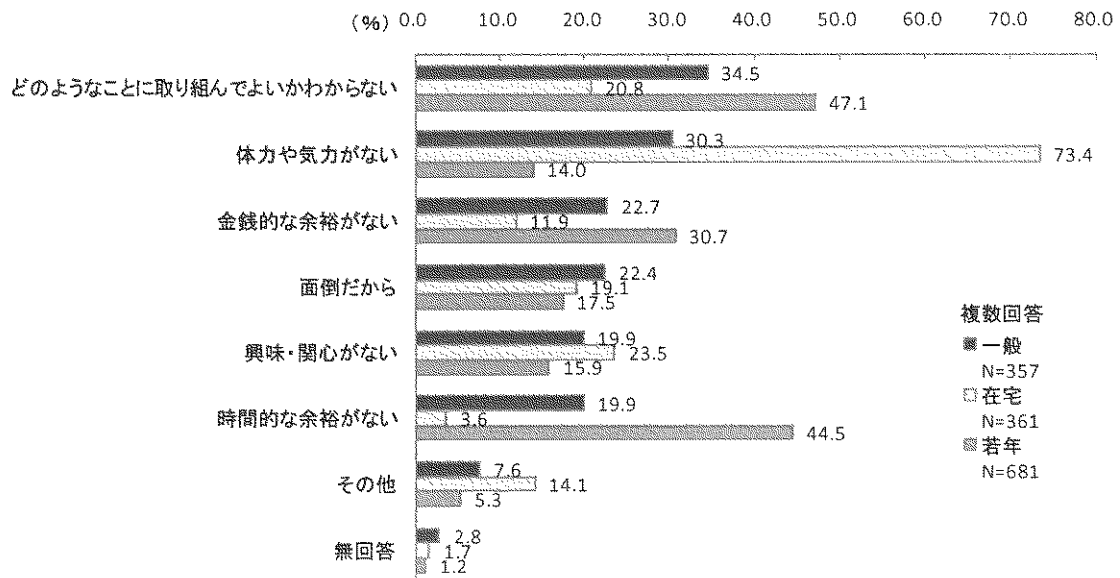
(4) - 3 介護予防に取り組まない理由

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

介護予防に取り組んでいないと回答した人にその理由について尋ねたところ、一般高齢者では「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が 34.5%、「体力や気力が無い」が 30.3%で、上位2つとなっている。

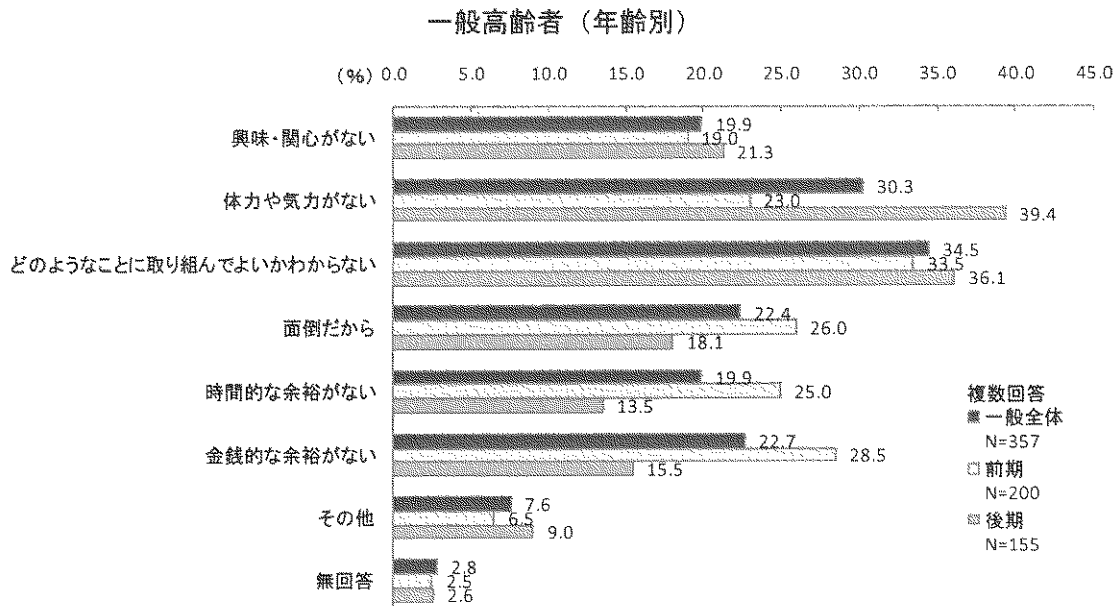
在宅高齢者では、「体力や気力が無い」が 73.4%で最も多く、以下は「興味・関心がない」が 23.5%、「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が 20.8%で続いている。

若年者では、「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が 47.1%、「時間的な余裕がない」が 44.5%となっており、これらが上位2つとなっている。次いで「金銭的な余裕がない」が 30.7%となっている。

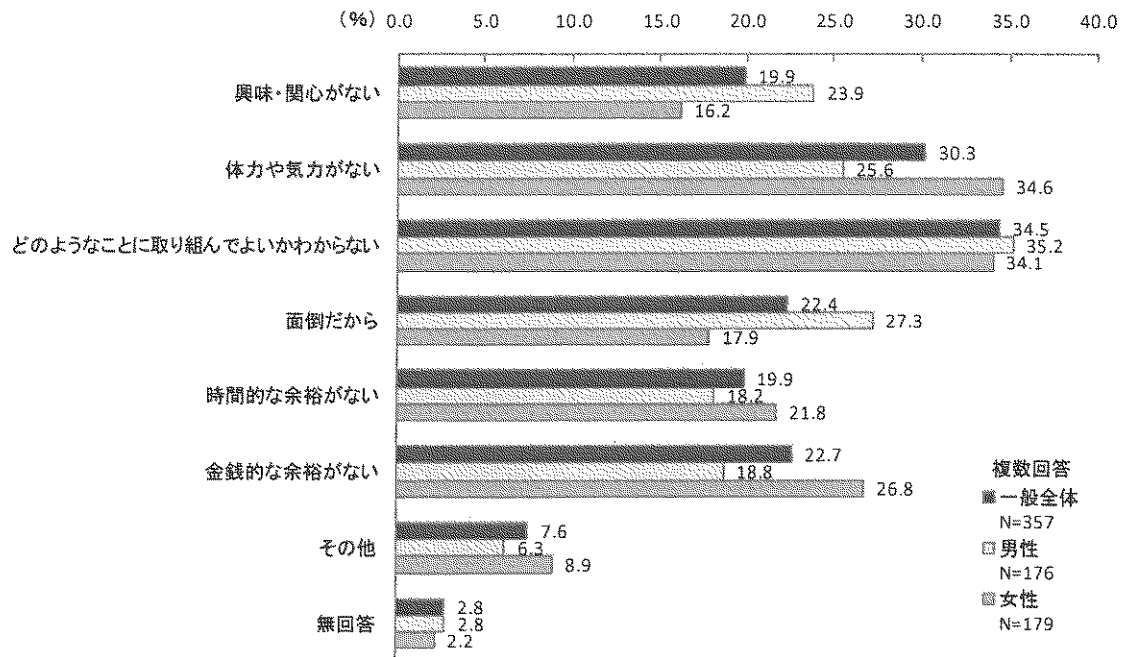


【調査対象属性別特徴】

一般高齢者の年齢別にみると、前期高齢者では、「どのようなことに取り組んでよいかわからない」や「金銭的な余裕がない」、「面倒だから」、「時間的な余裕がない」が多いのに対し、後期高齢者では「体力や気力がない」が多い。男女別にみると、男性では「どのようなことに取り組んでよいかわからない」、「面倒だから」の順、女性では「体力や気力がない」、「どのようなことに取り組んでよいかわからない」の順で割合が高くなっている。



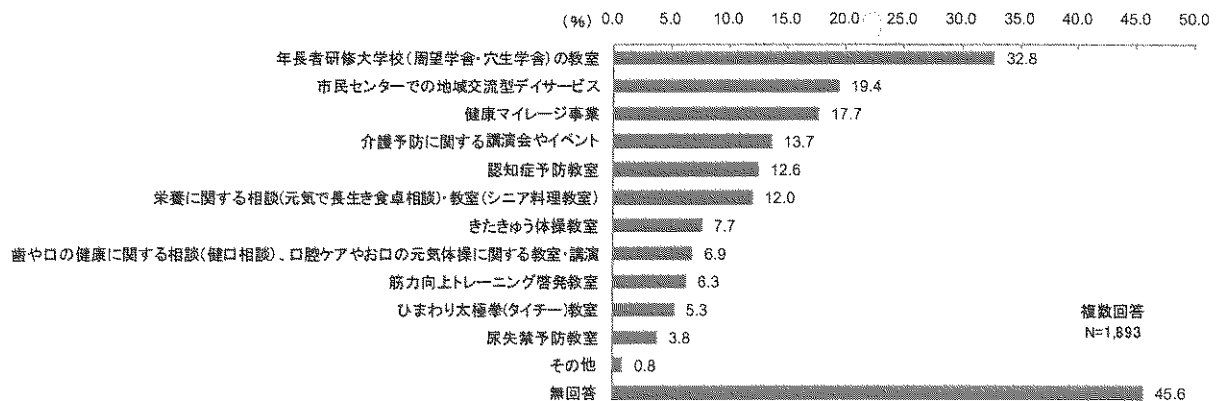
一般高齢者（男女別）



(4) - 4 介護予防事業の認知度

対象：『一般高齢者』

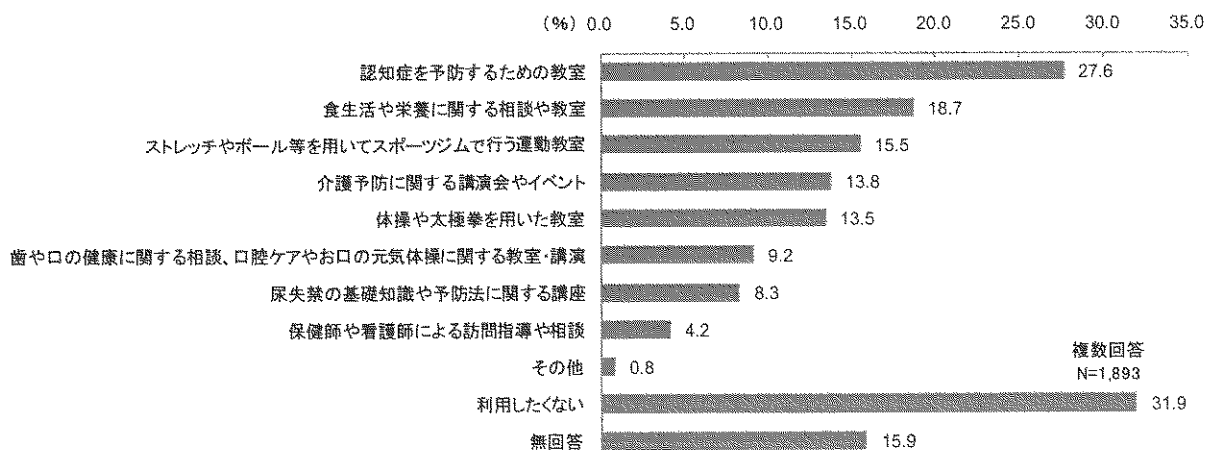
北九州市において実施している介護予防事業の認知度について尋ねたところ、「年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎）の教室」が 32.8%と最も多い。次いで「市民センターでの地域交流型デイサービス」が 19.4%、「健康マイレージ事業」が 17.7%となっている。



(4) - 5 利用してみたい介護予防事業

対象：『一般高齢者』

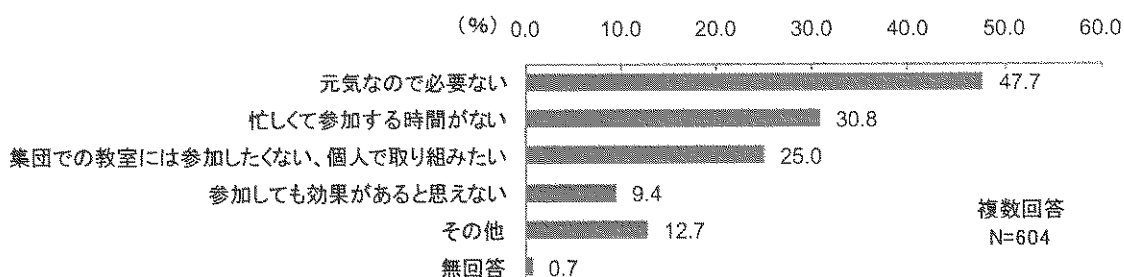
あれば利用してみたい介護予防事業について尋ねたところ、「認知症を予防するための教室」が27.6%、次いで「食生活や栄養に関する相談や教室」が18.7%であった。なお、「利用したくない」と回答した人は31.9%であった。



(4) - 6 介護予防事業を利用したくない理由

対象：『一般高齢者』

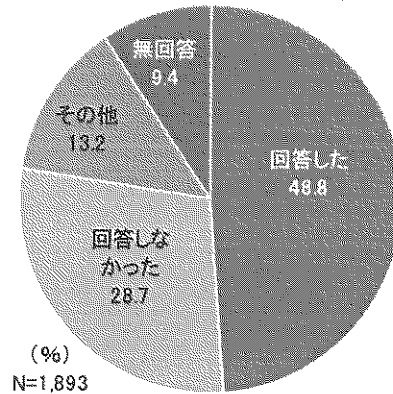
利用してみたい介護予防事業の質問に対し、「利用したくない」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「元気なので必要ない」が47.7%と最も多く、次いで「忙しくて参加する時間がない」が30.8%、「集団での教室には参加したくない、個人で取り組みたい」が25.0%となっている。



(5) 健康いきいきチェックについて

対象：『一般高齢者』

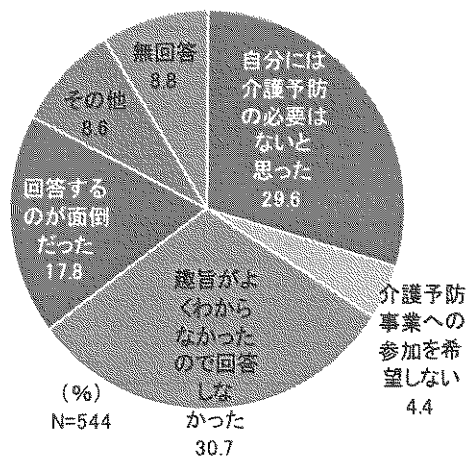
健康状態や生活のようすを確認するための健康いきいきチェックに過去1年間に「回答した」人は48.8%であった。一方、「回答しなかった」人は28.7%であった。



(5) - 1 健康いきいきチェックに回答しなかった理由

対象：『一般高齢者』

健康いきいきチェックに「回答しなかった」人にその理由を尋ねたところ、「趣旨が良くわからなかったので回答しなかった」が30.7%、「自分には介護予防の必要はないと思った」が29.6%で上位であった。



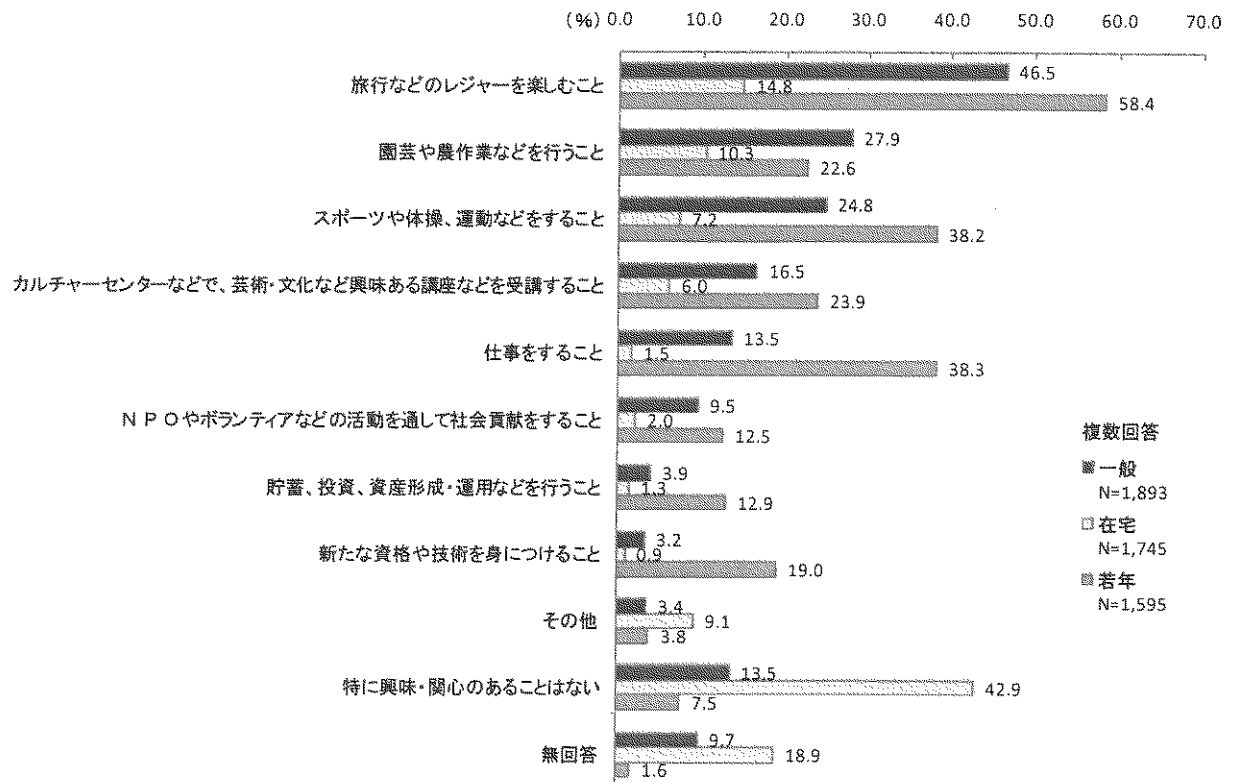
(4) 興味・関心があること、今後取り組んでみたいこと

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

興味・関心があること、今後取り組んでみたいことについて尋ねたところ、一般高齢者では、「旅行などのレジャーを楽しむこと」が46.5%で最も多い。次いで「園芸や農作業などを行うこと」が27.9%、「スポーツや体操、運動などをする事」が24.8%となっている。前回調査と比べると、項目の順位に大きな変動はない。

在宅高齢者では、「特に興味・関心のあることはない」が42.9%で最も多い。一方、興味・関心があることは、「旅行などのレジャーを楽しむこと」が14.8%、「園芸や農作業などを行うこと」が10.3%、「スポーツや体操、運動などをする事」が7.2%となっている。

若年者では、「旅行などのレジャーを楽しむこと」が58.4%と最も多くなっている。次いで今回新たな項目として加えられた「仕事をする事」が38.3%、「スポーツや体操、運動などをする事」の38.2%となっている。

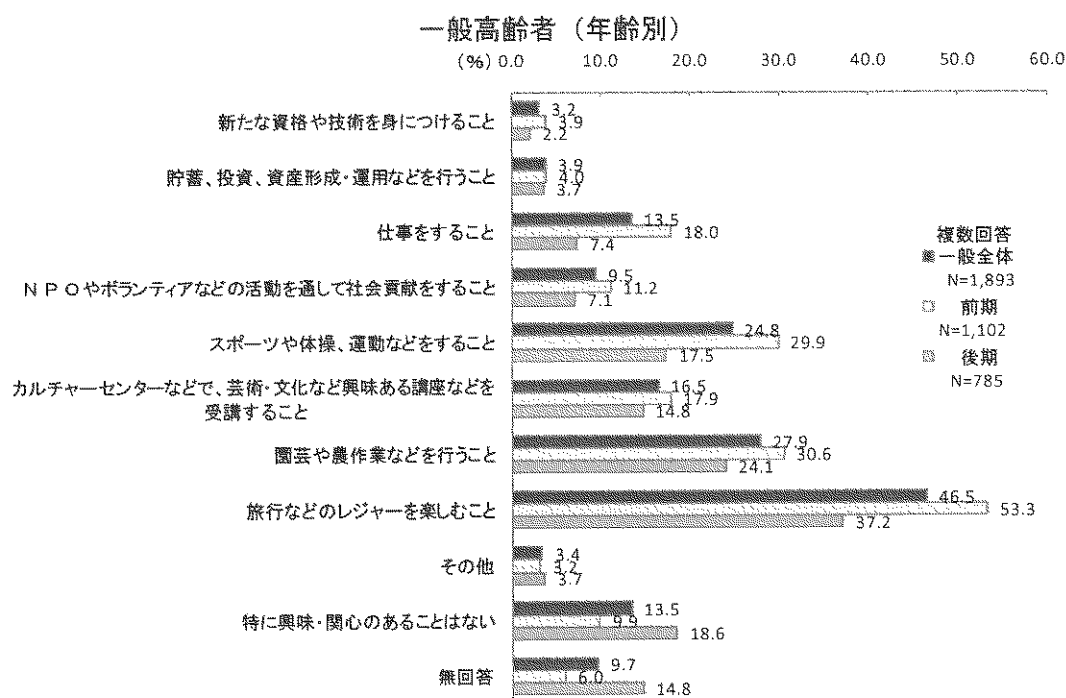


【調査対象属性別特徴】

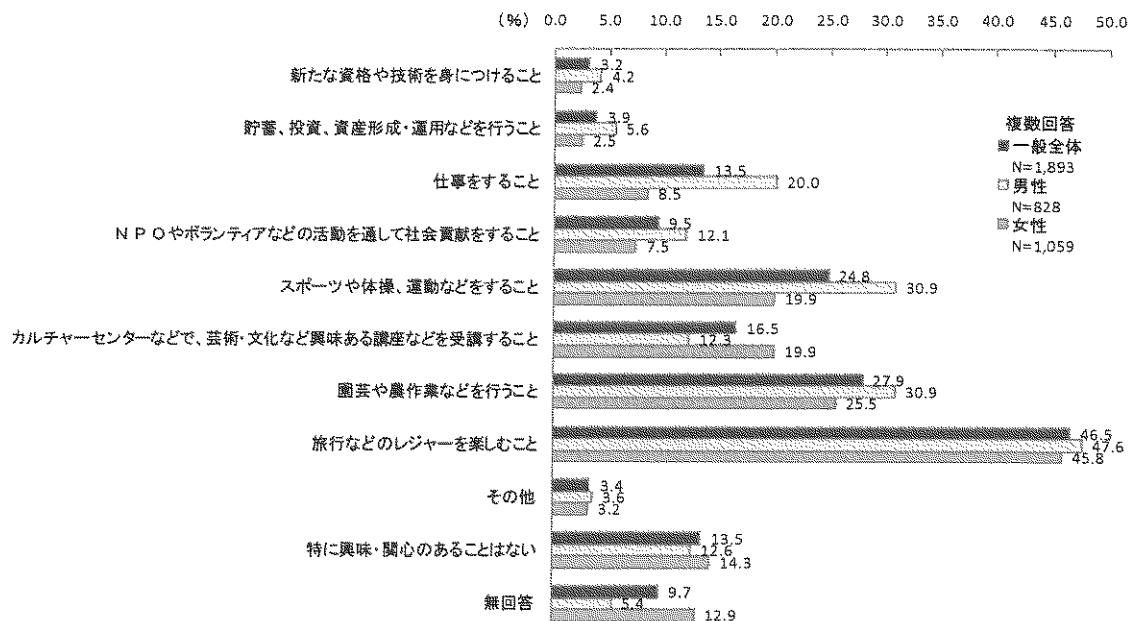
一般高齢者の年齢別にみると、前期高齢者の方が全体的に高い割合を示している。男女別にみると、男性の場合、女性と比べ全体的に割合が高く、なかでも「仕事をする事」や「スポーツや体操、運動などをする事」の割合が高い。保険料段階別にみると、保険料段階の高い人ほど、「旅行などのレジャーを楽しむこと」、「仕事をする事」、「スポーツや体操、運動などをする事」の回答の割合が高い。

在宅高齢者の年齢別にみると、前期高齢者で「旅行などのレジャーを楽しむこと」の回答の割合が高い。

若年者の年齢別にみると、「新たな資格や技術を身につけること」、「貯蓄や投資、資産形成・運用などを行うこと」は若い層での回答が多く、「園芸や農作業などを行うこと」は年齢が高い層での回答が多い。



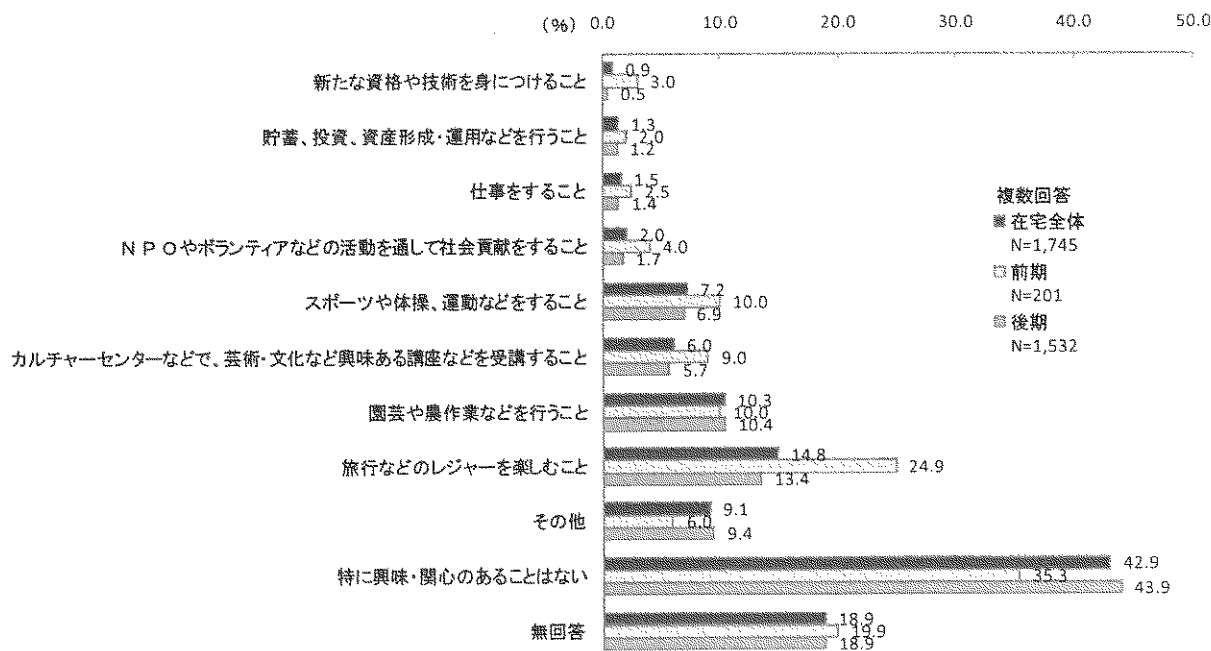
一般高齢者（男女別）



一般高齢者（保険料段階別）

	構成比(%)											計
	計	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	第7段階	第8段階	第9段階	不明	
1 新たな資格や技術を身につけること	60	5.7	2.2	4.2	1.9	1.7	4.6	5.8	5.8	6.0	0.0	3.2
2 貯蓄、投資、資産形成・運用などを行うこと	73	0.0	1.3	1.9	3.1	5.9	6.6	6.5	5.8	7.5	0.0	3.9
3 仕事をする	256	11.4	11.7	14.6	5.8	16.0	13.3	18.7	25.0	49.3	0.0	13.5
4 NPOやボランティアなどの活動を通して社会貢献をすること	179	5.7	7.9	9.6	7.6	8.7	13.8	14.2	11.5	11.9	0.0	9.5
5 スポーツや体操、運動などをすること	469	14.3	16.4	22.6	20.0	31.6	31.1	32.3	40.4	37.3	33.3	24.8
6 カルチャーセンターなどで、芸術・文化など興味ある講座などを受講すること	313	8.6	13.6	18.0	20.0	13.2	16.8	17.4	21.2	11.9	0.0	16.5
7 園芸や農作業などを行うこと	529	20.0	24.0	26.8	29.7	28.5	30.6	28.4	30.8	26.9	50.0	27.9
8 旅行などのレジャーを楽しむこと	881	14.3	38.5	42.5	48.8	47.2	48.5	55.5	71.2	52.2	33.3	46.5
9 その他	65	8.6	3.2	3.8	3.7	2.4	4.6	2.6	1.9	1.5	16.7	3.4
10 特に興味・関心のあることはない	255	28.6	18.6	15.3	14.1	12.8	9.7	8.4	1.9	4.5	0.0	13.5
無回答	183	11.4	16.1	7.7	12.2	7.3	7.1	2.6	1.9	6.0	16.7	9.7
計	1,893	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

在宅高齢者（年齢別）



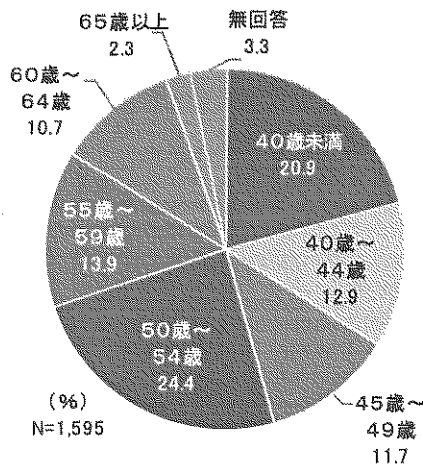
若年者（年齢別）

	実数		構成比(%)					無回答	計
	計		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳		
1 新たな資格や技術を身につけること	303		35.5	28.2	19.7	15.3	7.8	12.5	19.0
2 貯蓄、投資、資産形成・運用などを行うこと	206		23.1	18.5	16.5	7.1	7.3	0.0	12.9
3 仕事をする	611		37.5	41.2	45.5	39.1	31.8	45.8	38.3
4 NPOやボランティアなどの活動を通して社会貢献をすること	200		7.2	10.9	14.3	14.2	14.7	0.0	12.5
5 スポーツや体操、運動などをする	609		41.0	43.3	43.7	30.9	36.2	37.5	38.2
6 カルチャーセンターなどで、芸術・文化など興味ある講座などを受講すること	381		22.3	23.5	26.5	25.2	22.4	20.8	23.9
7 園芸や農作業などを行うこと	360		15.5	12.6	20.4	25.5	30.4	29.2	22.6
8 旅行などのレジャーを楽しむこと	931		61.4	57.6	63.1	58.6	54.9	41.7	58.4
9 その他	60		4.0	3.4	2.9	4.2	4.2	0.0	3.8
10 特に興味・関心のあることはない	120		6.4	6.7	5.0	10.2	8.2	4.2	7.5
無回答	26		1.2	0.8	0.7	1.7	2.9	0.0	1.6
計	1,595		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(4) - 1 老後の準備開始時期

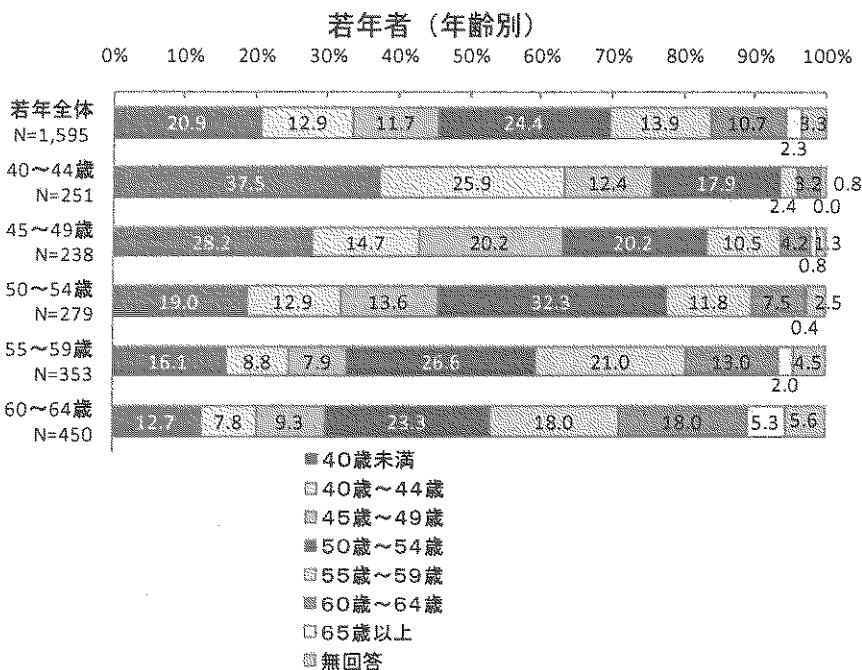
対象：『若年者』

自身の老後に向けての準備（健康づくり、趣味、貯蓄など）を何歳から始めたか、あるいは何歳から始めたらよいと思うかについて尋ねたところ、「50歳～54歳」が最も多く、24.4%となっている。「40歳未満」は20.9%、40代（「40歳～44歳」、「45歳～49歳」を合わせた割合）は24.6%、50代（「50歳～54歳」、「55歳～59歳」を合わせた割合）は38.3%、60代以上（「60歳～64歳」、「65歳以上」を合わせた割合）は13.0%となっている。前回調査と比べると、「49歳未満」が5.6ポイント上昇している。一方「50歳以上」は5.0ポイント減少している。



【調査対象属性別特徴】

若年者の年齢別にみると、40代は「40歳未満」、50代は「50～54歳」という回答が多い。



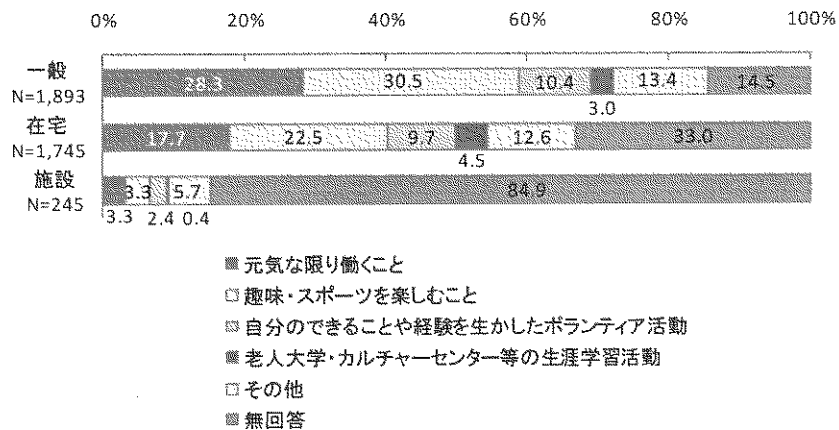
(5) 望ましい高齢者の社会参加活動

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『施設入所者』

望ましいと考える高齢者の社会参加活動について尋ねたところ、一般高齢者では「趣味・スポーツを楽しむこと」が30.5%、「元気な限り働くこと」が28.3%で上位になっている。

在宅高齢者でも、「趣味・スポーツを楽しむこと」が22.5%、「元気な限り働くこと」が17.7%で上位になっている。

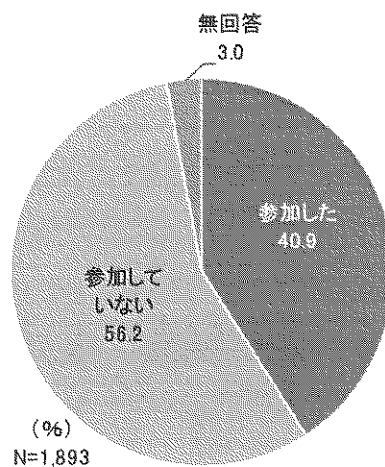
施設入所者では84.9%が無回答であった。



(6) 地域活動・ボランティア活動等の状況

対象：『一般高齢者』

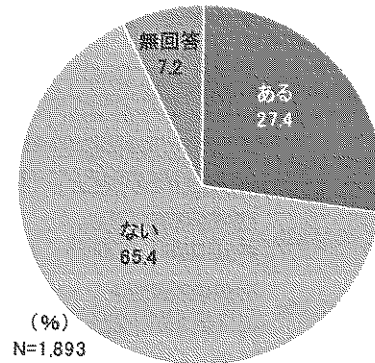
この1年間に、自治会や町内会、婦人会、まちづくり協議会、老人クラブなどの地域活動に参加したかどうかを尋ねたところ、「参加した」人は40.9%、「参加していない」人は56.2%であった。



(6) - 1 ボランティア活動の参加経験

対象：『一般高齢者』

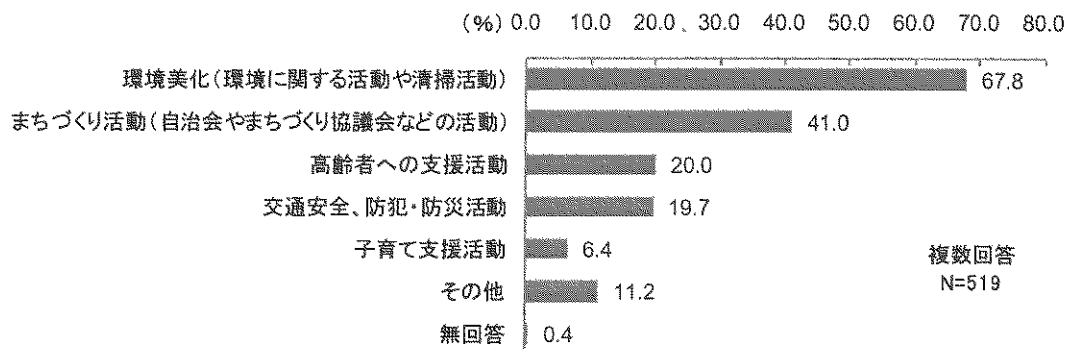
ボランティア活動に参加したことが「ある」人は 27.4%、参加したことが「ない」人は 65.4%であった。



(6) - 2 参加しているボランティア活動

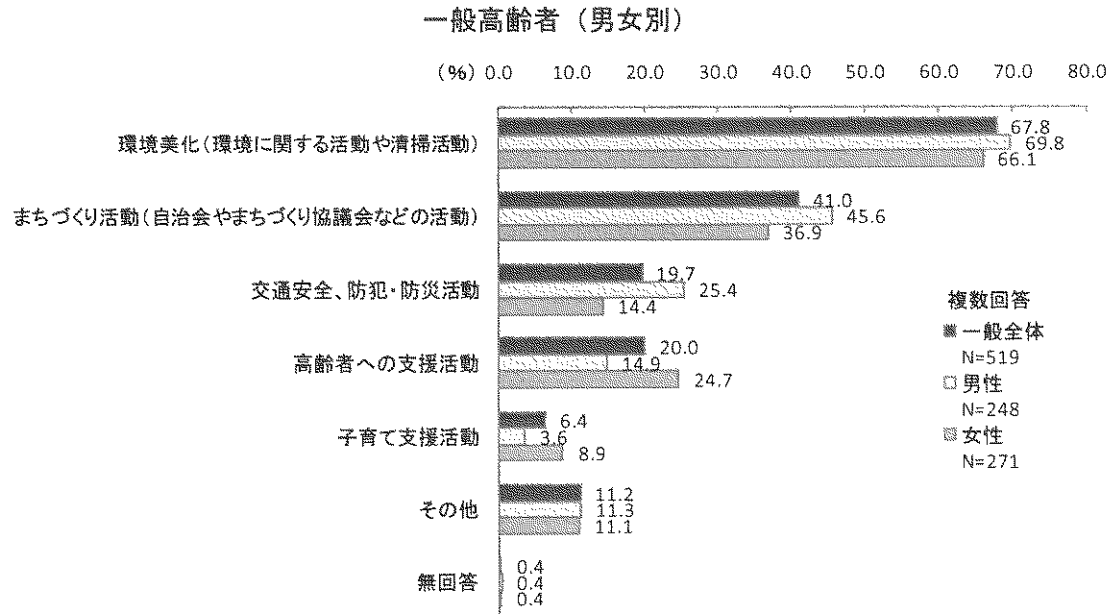
対象：『一般高齢者』

参加しているボランティア活動で最も多かったのは「環境美化（環境に関する活動や清掃活動）」で 67.8%である。次いで「まちづくり活動（自治会やまちづくり協議会などの活動）」が 41.0%となっている。



【調査対象属性別特徴】

一般高齢者の男女別にみると、男性では「まちづくり活動」や「交通安全、防犯・防災活動」、女性では「高齢者への支援活動」が多い。



12. 高齢者福祉施策について

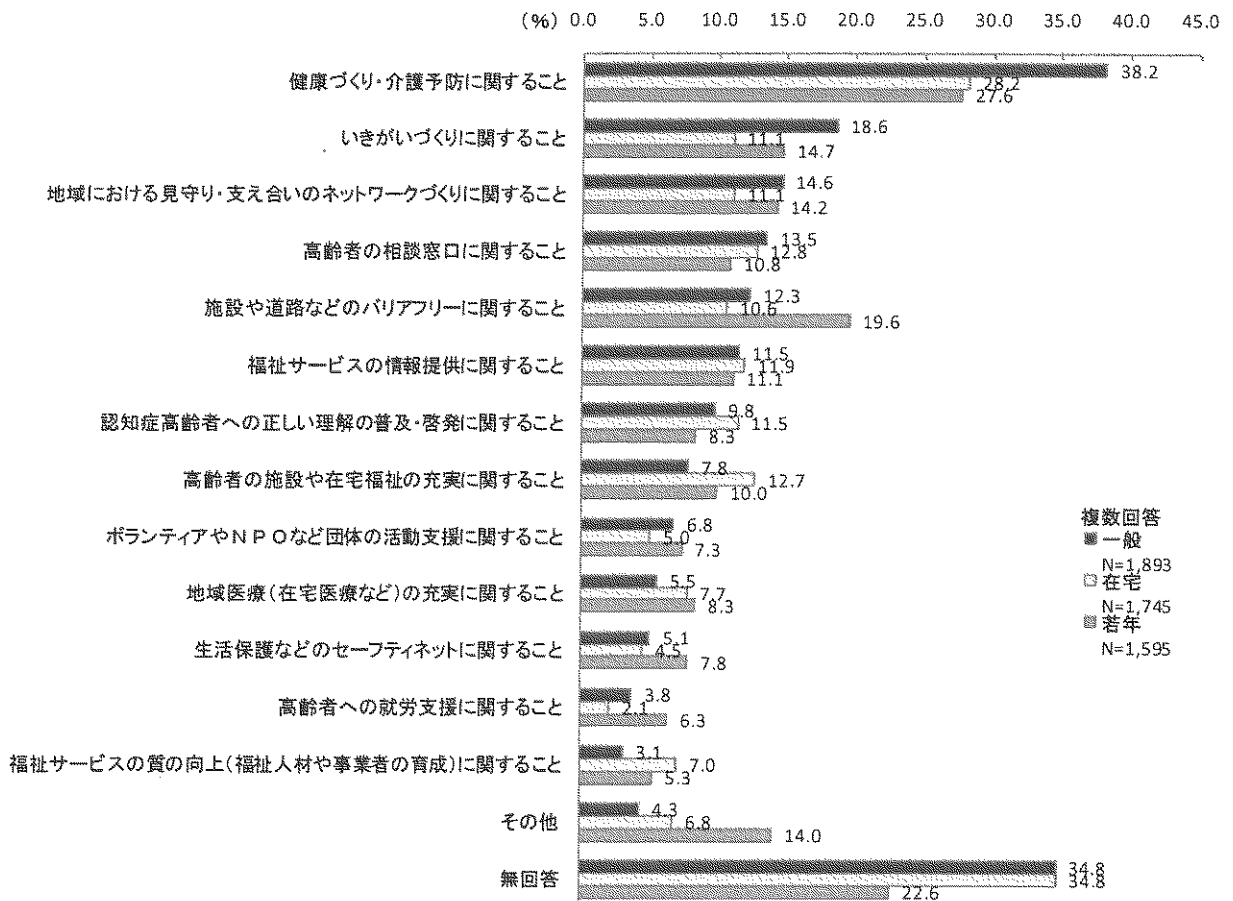
(1) 北九州市の高齢者施策で充実してきたと思うもの

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

一般高齢者では、「健康づくり・介護予防に関すること」が38.2%で、最も多い。次いで「いきがいつくりに関すること」で18.6%、「地域における見守り・支え合いのネットワークづくりに関すること」で14.6%となっている。無回答は34.8%であった。

在宅高齢者では、「健康づくり・介護予防に関すること」が28.2%で最も多い。無回答は34.8%であった。

若年者では、「健康づくり・介護予防に関すること」が最も多く27.6%、次いで「施設や道路などのバリアフリーに関すること」が19.6%となっている。無回答は一般高齢者や在宅高齢者と比べて少なかった。



（２）北九州市が力を入れていくべき施策

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者（本人、家族）』、『若年者』、『施設入所者』

一般高齢者では、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が最も多く44.7%、次いで「健康づくりや介護予防に関連した事業の充実」が38.8%、「利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供」が36.6%となっている。前回調査と比べると、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」の項目が9.6ポイント増加している。

在宅高齢者本人では、「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.9%、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が40.9%で上位2つとなっている。

在宅高齢者の家族に対する質問でも、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が43.4%、「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が40.7%となっている。前回調査と比べると、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」の割合が増えている。

若年者では、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が最も多く55.4%、次いで「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が49.2%、「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」が48.4%、「利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供」が47.1%となっている。前回調査と比べると、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」や「介護問題に関する相談窓口や相談体制の整備」への回答が増えている。

施設入所者については、ほとんどが無回答か、その他であった。

